

球磨村議会

村政検証へ特別委設置

村長辞職勧告後も進展なく

球磨村議会は9月定例会最終日の12日、村長辞職勧告決議で求めた課題解決への具体的な進展がないことを受けて、解決策を促す「行政運営の検証に関する調査特別委員会」を設置した。

調査項目は、議会6月定例会で可決した松谷浩一村長に対する辞職勧告決議で、議会が示した①一勝地温泉かわせみの未払い金問題②くまもろ山村活性化

協会の巡る問題③人事異動の不適切さ④村長による職員への不適切な発言⑤義務教育学校一体型校舎建設の遅延の5項目。別に、法令違反に該当する可能性のある事業も調査する。

提案者の田代利一議員は、辞職勧告決議で求められた5つの項目について、松谷村長から8月28日に回答書が提出されたが、「一部の項目では全く進展が見られない」と指摘。「行政運営に関する問題を一つ一つ解決する必要がある」として、今回の特別委員会設置を提案、原案のとおり可決された。

委員は議長を除く8議員で構成し、委員長に宮本直彦議員、副委員長に永椎樹一郎議員を選任した。

宮本委員長は、この委員会が村長に対する不信任決議を協議する場ではなく、「あくまでも課題解決を促すことが第一の目的」として、「この2年間で積み重なった課題を解決することが、村の発展の出発点である。議会として松谷村長に責任ある対応を求め、村の将来に向けた道筋を見いださせたい」と述べた。

村側は、将来的な半導体不足による車両価格の上昇リスクを避けるため、リースよりも購入の方が費用対効果が高いと主張。

しかし、永椎議員は「購入時に利用できる大幅な費用削減が期待できる補助金を活用していない」と問題視。

松谷浩一村長は補助金の申請が間に合わなかったことを認め、「今後は避けるべき」と述べた。永椎議員はさらに「新たなリース契約との比較検討が不十分である」と指摘した。

永椎議員からの指摘を受け、村の執行部はいったん、スクールバス購入費を含む議案を撤回。松谷村長は「スクールバスの購入について再検討する」と説明し、議会もこれを承認した。その後、スクールバスの購入費を削除した同予算案が再度提案され、原案とおり可決された。

球磨村議会9月定例会は12日、令和7年度一般会計補正予算案から、スクールバスの購入費を削除する修正案を可決した。決算認定などは全て原案どおり可決して閉会した。

この修正案は、永椎樹一郎議員が同補正予算案の質疑でスクールバス3台の購入費1440万円について、村の計画性のなさを批判したことがきっかけ。

球磨村議会9月定例会は12日、令和7年度一般会計補正予算案から、スクールバスの購入費を削除する修正案を可決した。決算認定などは全て原案どおり可決して閉会した。

この修正案は、永椎樹一郎議員が同補正予算案の質疑でスクールバス3台の購入費1440万円について、村の計画性のなさを批判したことがきっかけ。



理由を述べる田代議員